

事故繰越しを必要とする理由書

支出負担行為担当官

①事故繰越しの概要

所管・会計		組織・項	
「目」の名称		「目の細分」の名称	
事項名			
箇所名			
所在			
事業内容			
要繰越額		円	

②前年度における明許繰越し(翌債)時の関係書類の確認

<input type="checkbox"/>	1. 前年度から明許繰越し(翌債)によって繰り越された経費である
<input type="checkbox"/>	2. 前年度から明許繰越し(翌債)によって繰り越された経費ではない
「1」に該当する場合は、以下の2項目を確認の上、チェックを入れてください。なお、「1-1」に該当しない場合は具体の理由を記入してください。	
<input type="checkbox"/>	1-1. 「要繰越額」は前年度における明許繰越し(翌債)承認後の繰越額(確定額)の範囲内であることを確認
	「1-1」に該当しない理由:
<input type="checkbox"/>	1-2. 「箇所別調書及び理由書」(事項名、箇所名及び繰越事由がわかるページのみで可)を添付

③

支出負担行為年月日	年	月	日
支出負担行為済額		円	

④

事故発生年月日	年	月	日	(~)	年	月	日
---------	---	---	---	-------	---	---	---

⑤

事故事由	類型	
	事由	

⑥

当初の事業計画	年	月	日	~	年	月	日
明許繰越し(翌債)後の事業計画	年	月	日	~	年	月	日
事故繰越し後の事業計画	年	月	日	~	年	月	日

⑦事業の遅れに繋がった他の要因があれば、その原因等を事業計画との比較(中断・再開時期の理由、工期の長期化の理由など)で説明してください。

--

連絡先	
TEL	
担当	

以下に沿って記入をお願いします。

【記載例】事故繰越しを必要とする理由書

支出負担行為担当官 ○○局○○課会計課長

- 1 事故繰越しの概要について記載する。
- (1)を記入
- 2 前年度から明許繰越し(空債)によって繰り越された経費である(当該経費の事故繰越しではない場合は「2」にチェックし「1-1」「1-2」のチェックは不要)。
- (2)を記入
- 3 支出負担行為は実施済みである。
- (3)を記入
- 4 事故が生じた年月日は③より後である。
- (4)を記入
- 5 事故事由
- (5)を記入
- 6 事故事由は当該年度中の事由である。
- (6)を記入
- 7 計画変更後の事業は翌年度内に終了する見込みである。
- (7)を記入
- 8 事故事由に記載した内容以外に事業の遅れの原因がある場合には、事業計画との比較により理由を記載する。
- (8)を記入

①事故繰越しの概要

所管・会計	○○省 一般会計	組織・項	○○本省 ○○事業費
「目」の名称	○○事業費	「目の細分」の名称	○○事業費
事項名	一級河川○○川河川改修工事		
箇所名	第△△号		
所在	○○県○○市○○町○○地先～△△地先		
事業内容	一級河川○○川河川改修工事に係る護岸工事 護岸工 L=300m		
要繰越額	○○, ○○○, ○○○ 円		

「事業内容」欄には、事故繰越しの対象となる経費の内容を記入するとともに、事故事由との整合にも留意の上、記入してください。

前年度から明許繰越し(空債)によって繰り越された経費(本省繰越しを含む)であること等について、当該欄を確認の上、以下の点に留意しつつ、確認・添付を了したあとに✓を入れてください。

(留意点)
 ・前年度に明許繰越し(空債)を行っていない場合は、「2」に✓を入れ、「1-1」「1-2」の✓は不要です。
 ・前年度からの繰越事業分(全額明許繰越し)と本年度事業分の予算をまとめて契約(交付決定)した場合であって、その全額を事故繰越しとして承認申請するものについては、原則、繰越「事項」をそれぞれ別立てしてください。
 ・添付する「箇所別調査及び理由書」に複数事項(箇所)の記載がある場合は、事故繰越しの対象となる事項(箇所)を着色するなど、容易に特定できるよう工夫してください。

②前年度における明許繰越し(空債)時の関係書類の確認

<input checked="" type="checkbox"/>	1. 前年度から明許繰越し(空債)によって繰り越された経費である
<input type="checkbox"/>	2. 前年度から明許繰越し(空債)によって繰り越された経費ではない

「1」に該当する場合は、以下の2項目を確認の上、チェックを入れてください。なお、「1-1」に該当しない場合は具体的な理由を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/>	1-1. 「要繰越額」は前年度における明許繰越し(空債)承認後の繰越額(確定額)の範囲内であることを確認
	「1-1」に該当しない理由:
<input checked="" type="checkbox"/>	1-2. 「箇所別調査及び理由書」(事項名、

当初(変更があった場合は変更後※)の支出負担行為年月日及び支出負担行為済額を記入してください。なお、当該欄は、「繰越計算書(事故繰越しの分)」の同欄のうち上段()書きと原則一致させてください。※「変更があった場合」とは、変更契約等(補助事業等においては変更交付決定)により新たな債務負担額が発生する(=支出負担行為に該当する)場合を指し、期限変更のみ等の新たな債務負担額が発生しない(=支出負担行為に該当しない)場合は、当初の支出負担行為年月日及び支出負担行為済額を記入してください。

③

支出負担行為年月日	R5 年 5 月 1 日
支出負担行為済額	○○, ○○○, ○○○ 円

事故の要因が複数日にわたる場合は、事故が生じた期間を記入してください。

④

事故発生年月日	R6 年 9 月 1 日 (~ 年 月 日)
---------	--------------------------

繰越しガイドブック 参考資料編「2. 事故繰越しの事例」における類型(1. 異常気象等、2. 工事現場等での障害、など)のうち該当するものを選択してください(該当する類型がない場合は「その他」を選択してください)。なお、事故事由の審査に当たっては、事業の内容や進捗状況等を踏まえ、個別具体的に事故繰越しの要件を具備しているかを確認することから、例文と一致していることをもって必ずしも事故繰越しが承認されるものではないことにご留意願います。

⑤

類型	工事現場等での障害
事由	工事を実施していたところ、令和6年9月1日に上流域において事前調査では確認されなかった不安定土砂が大量に堆積していることが判明した。即日、工事を中止して現場の安全確保のための対策検討を行った結果、上流部に土石流捕捉のためのワイヤネットとともに土石流の前兆現象を把握するためのセンサーを設置する必要が生じ、これらの設置工事に6か月の不測の日数を要したことにより、年度内の事業完了が困難となった。

事故事由を確認するため、事故発生年月日にどのような事故が発生し、事業の進捗にどのような影響を及ぼしたのかを具体的に記入してください。

支出負担行為後に発生した当該年度中の事故事由について具体的に記入してください。なお、前年度に明許繰越し(空債)を行っている場合、それと同じ繰越事由をもって事故繰越しすることは認められません。

⑥

当初の事業計画	R5 年 4 月 3 日 ~ R6 年 1 月 31 日
明許繰越し(空債)後の事業計画	R5 年 4 月 3 日 ~ R6 年 12 月 20 日
事故繰越し後の事業計画	R5 年 4 月 3 日 ~ R7 年 9 月 19 日

明許(空債)承認時の「事務事業の完了の見込年月日」を記入してください。改め明許の場合には、改め明許承認時の事業計画を記入してください。

翌年度内に事業が終了見込となっているかを確認してください。

⑦事業の遅れに繋がった他の要因があれば、その原因等を事業計画との比較(中断・再開時期の理由、工期の長期化の理由など)で説明してください。

【工期の長期化の理由】
 上流域に不安定土砂が大量に堆積している事実を踏まえ、より現場の安全確保を講じる必要が生じたため、護岸工事に6か月要する予定であったところ9か月(6か月+3か月)要することとなった。
 【契約の推移】
 R5年4月3日 当初契約
 R5年4月20日 変更契約(1回目、工期延長のみ)
 R5年5月1日 変更契約(2回目、増額変更)
 (空債承認後) R5年12月1日 変更契約(3回目、工期延長のみ)

事故事由について、補足がある場合には記入してください。また、契約(補助金等の交付決定)を複数回行っている場合には、その日付、回数及び契約(補助金等の交付決定)額の増減の有無を記入してください。(例)補助金等の交付決定を複数回行っている場合【契約の推移】
 R●年●月●日 交付決定
 R●年●月●日 変更交付決定(1回目、期間延長のみ)
 R●年●月●日 変更交付決定(2回目、増額変更)
 (空債承認後) R●年●月●日 変更交付決定

連絡先	○○局○○課
TEL	012-345-6789
担当	財務 太郎